

資料 4

中央教育審議会大学分科会
大学教育部会（第 23 回）
H24. 12. 27

大学教育改革地域フォーラムの結果等について

（目 次）

第 16 回	奈良県大学連合	・・・ 1 頁
第 17 回	ネットワーク多摩	・・・ 5 頁

第16回大学教育改革地域フォーラムの結果

【名 称】大学教育改革地域フォーラム2012 in 奈良

【日 時】平成24年11月25日(日)13:30～16:30

【テーマ】大学での学びを深め楽しむために、今必要なこと
～社会が求める大学での学び～

【形 式】パネルディスカッション

(モデレーター) 岩井 洋 (帝塚山大学学長)

(パネリスト) 小松親次郎(文部科学省高等教育局私学部長)

松山 豊樹(奈良教育大学教授)

栗山 道義(奈良県人事委員会委員長、(株)三井住友銀行元副頭取)

吉田 育弘(奈良県教育委員会次長)

福永 祥子(奈良女子大学学生・文学部3回生)

藤本奈都美(畿央大学学生・教育学部3回生)

阪口 敦人(帝塚山大学学生・経済学部4回生)

(総合司会) 生田 周二(山形大学学生・人文学部2年)

【参加者数】168名(学生:32名、大学関係者(教職員):122名、その他:14名)

【パネリストの主な発表内容】

○将来予測の難しい時代になり、社会や企業からは、若者に対する期待と、若者を育成する大学への期待がこれまで以上に高まっている。主体的に問題を発見し解決策を見だしていく人材を育成できるよう大学教育の質的転換が求められている。

○高い専門性と優れた教育実践力を持った理数科教員の育成を目指し、少人数教育の実施やカリキュラムの体系化、総単位数の純増を伴う専門科目の倍増など、新しい取組を推進している。教員・学生ともに大変だが、学生発案のプロジェクトも生まれるなど、積極的に意識の高い学生が増えている。

○近年の採用活動では、主体的に考え、行動ができる、自分でエンジンを持っている若者を見つけることが難しい。企業は大学に、課題発見能力や問題設定能力のある人材を育成することを求めている。

○人材育成に成功している大学の共通点として、大学の特色や社会的使命を明確に打ち出していること、学修の動機付けに取り組んでいること、大学組織全体で改革に取り組んでいることなどが挙げられる。大学改革の方法は様々であり、各大学の個性を踏まえ、実行していくことが重要。

○学生に主体性や社会性を求めるなら、まず大学自身が変わる必要がある。

○奈良県の子どもについて、学力は高い一方で、勉強を好きだと答える子どもが少ないという調査結果があり、主体的な学びは、初等中等教育段階から課題となっている。

○高等学校でのキャリア教育を充実させ、自ら学ぶ目標を持って大学に進学していけるようにすることが大事。

○サークル活動やボランティア活動、アルバイト等から得られる学びも重要であり、主体的な学修について、学内・学外を区別する必要はない。

○「学修しやすい環境」の定義は人それぞれであり、個々の学生が選べるような環境にすることが重要。

○人とのつながりやコミュニケーションが、主体的な学修の動機付けとなるし、先輩等モデルになる大人が近くにいと、自分の目標を見つけやすい。学生生活や将来について自ら見通しを立てられない学生に対して、きっかけを与えるような場となることが、大学には求められている。

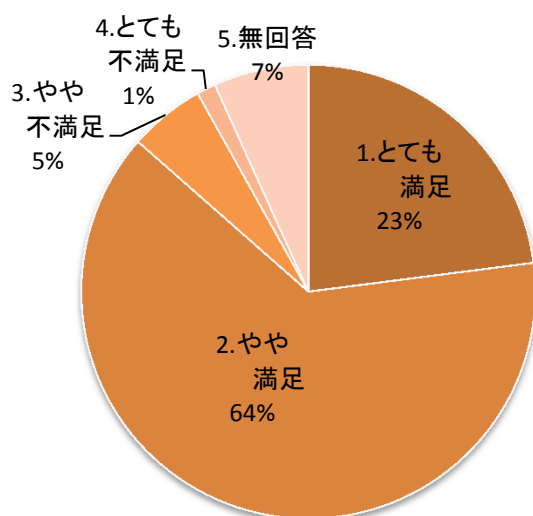
【会場参加者も含めたディスカッションにおける主な意見等】

- 学修時間について、文化的・社会的背景の違いを踏まえれば、単純に米国と比較することはできない。時間数の増加には、動機付け・目標設定が伴っていることが重要。
- 人員削減に伴う業務の増加は大学組織を疲弊させている。大学教育の質的転換にはリソースが必要。
- 大学での少人数教育の実施は、教員に相当な負担がかかるが、大変だからやめるのではなく、まだ出来るというつもりで工夫することが重要。例えば、教員間のコミュニケーションを意識的に活発にしたことより、相互理解が深まり、教員間の連携・協力が生まれたことがある。
- 社会から幅広い理解を得るためにも、予算増の必要性を訴えるだけでなく、大学自らが率先して改革する姿を見せることが大事。
- これまでの日本では、就職後のキャリアパスを企業が用意していたが、これからは欧米と同様、自分で自分のキャリアパスを作り、それに合せて働く場を変えていく時代。企業は、そうした主体的な人材を求めており、他社で能力を身につけた人材を選ぶ。
- 主体性教育は、大学から始めるのでは遅いため、義務教育段階から意識的に行うことが必要。知識の習得だけでなく、自分で考える時間を設け、自分の考えをしっかりと持たせる練習が重要。
- 高校では、学びが進学のための手段と捉えられ、センター試験を突破するための機械的なものとなってしまう。現在の大学入試には反映しきれていない高校での主体的な学びについても、きちんと評価されるような仕組みにすることが必要。
- 大学の授業に出席しない学生をどうすればよいのかが課題。米国の学生の勉強に対するモチベーションの高さには驚いたことがある。日本の学生は学びたいからではなく、就職するために必要だから大学に進学している。
- 大学で学んだ知識が実践で役立ったとき、学生は面白さを感じることができる。
- 経済的事情によりアルバイトで生活費を稼がないといけない学生にとって、一日8時間の学修は困難。在学中から奨学金返済のことも考え生活している状況。米国のように給付型の奨学金制度を充実させることが必要。

【学生を含めた参加者を対象とした主なアンケート結果※】

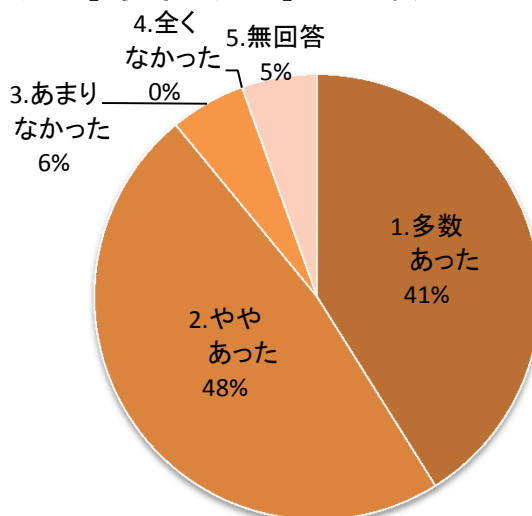
※回収率＝約44%(74人/168人)

Q.本日参加された満足度をお聞かせください。



満足度:87%

Q.フォーラム参加の発言・コメントの中に「ためになった」「参考になった」ものはありましたか？



参考になるコメントあり:89%

奈良県大学連合 大学教育改革地域フォーラム 2012 in 奈良

日 時：平成24年11月25日（日） 13時30分～16時30分

場 所：奈良教育大学 大講義室

主 催：奈良県大学連合

フォーラムのテーマ：「大学での学びを深め楽しむために、今必要なこと」
～社会が求める大学での学び～

- 総合司会 生田 周二 氏（奈良教育大学 理事・副学長）
- 奈良県大学連合代表 長友 恒人 氏（奈良教育大学 学長）
- コーディネーター 岩井 洋 氏（帝塚山大学 学長）
- パネリスト 小松 親次郎 氏（文部科学省 高等教育局私学部長）
松山 豊樹 氏（奈良教育大学 教授）
栗山 道義 氏（奈良県人事委員会 委員長、(株)三井住友銀行 元副頭取）
吉田 育弘 氏（奈良県教育委員会 次長）
福永 祥子 さん（奈良女子大学 学生）
藤本 奈都美 さん（畿央大学 学生）
阪口 敦人 さん（帝塚山大学 学生）

- プログラム
 - [I. 開会]
 - 13:30～ 開会（総合司会）
 - 13:30 主催者挨拶（奈良教育大学長 長友恒人）
 - [II. フォーラム]
 - 13:40 問題提起映像の上映「今、問われる『大学での学び』」
 - 14:00 パネルディスカッション
コーディネーター（岩井 洋様）からの発表（5分程度）
パネリスト①（小松 親次郎様）からの発表（10分程度）
パネリスト②（松山 豊樹様）からの発表（10分程度）
パネリスト③（栗山 道義様）からの発表（10分程度）
パネリスト④（吉田 育弘様）からの発表（10分程度）
 - 14:45 休憩（10分）（フロアからの質問受付）
 - 14:55 パネリスト⑤（福永 祥子様）からの発表（5分程度）
パネリスト⑥（藤本 奈都美様）からの発表（5分程度）
パネリスト⑦（阪口 敦人様）からの発表（5分程度）
 - 15:20 質疑応答及び会場参加者との討論
 - 16:20 総括・議論のまとめ
 - [III. 閉会]
 - 16:30 閉会（総合司会）

大学教育改革地域フォーラムin奈良(11/25)の様子



会場の様子



主催者挨拶の様子



壇上の様子



3名の学生パネリスト



フロアとの質疑応答の様子

第17回大学教育改革地域フォーラムの結果

【名 称】大学教育改革地域フォーラム2012 in ネットワーク多摩

【日 時】平成24年12月16日(日)13:00～18:00

【テーマ】大学教育の質的転換に向けて

～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～

【形 式】パネルディスカッション

(モデレーター) 小川 哲生(学術・文化・産業ネットワーク多摩会長、明星大学学長)

(パネリスト) 鈴木 寛 (元文部科学副大臣)

梶谷 誠 (電気通信大学学長)

日比谷潤子(国際基督教大学学長)

佐藤 浩二(多摩信用金庫理事長)

板東久美子(文部科学省高等教育局長)

(総合司会)

細野 助博(学術・文化・産業ネットワーク多摩専務理事、中央大学教授)

【参加者数】266名(学生:65名、大学関係者(教職員):169名、その他:32名)

【パネリストの主な発表内容(メインシンポジウム)】

- 激しい社会の変化の中で、高等教育に対する社会からの期待(特に人材育成)は高まっている。これからは社会の変革を牽引していく大学の役割が益々大きくなっていく。
- 予測困難な社会においては、一人一人が答えのない課題を発見し、課題解決の努力をし、それを実現していく主体的な力が必要になっていく。また、様々な社会の仲間と協働していく力が重要になっていく。
- 社会に出てから壁に突き当たったら、大学で学び直し、新しい知を「武装」し直すことも重要。
- 経済成長は人口×イノベーション。日本が成長しないのは人口が減っているから。成長しようと思ったら、イノベーション投資(人材・研究投資)をしっかりとしなければならない。
- しっかりと社会に出て活躍できる人材を育成したい。これまでの工業社会においては暗記力と反復力のある人材が活躍してきたが、これからの社会のキーワードは「唯一無二」、「一期一会」。この世に一つしかない、これまで誰もやっていない仕事に取り組み、成功パターンを見いだしていくことのできる力が必要。
- 無から有を、新しい付加価値をこの世界に生み出す、グローバル・クリエイティブ・イノベティブな人材が必要。
- ベルトコンベア式の仕事ではなく、ヒューマンコミュニケーションをとれる人材が必要。
- 大学は、これからの社会がどうなるかを考えた上で、どのように貢献するのかのメッセージを出さなければならない。
- これまでは「量」が価値観を持っていた積分型社会。21世紀は、「量」ではなく「変化」が求められる微分型社会。このような時代に対応する大学にならなければならないということを認識する必要がある。
- 大学が世の中の変化に対応していくためには、大学内をボーダレス化して多様性を持たせることが必要。産学連携はそのためにも必要となる。
- 生涯にわたり学び続ける力は、拡大し、越境していく知識基盤社会を生きる専門職業人においては不可欠の資質。
- 企業の採用実態調査によると、企業の求める人材と採用する人材との間での雇用のミスマッチが生じていることがわかる。その改善のためには、インターンシップをはじめとした「現場体感」、それを行うための産学官を通じた「長期的な関係づくり」、「地域連携」が必要。
- 「大人」というのは「志」を持つこと。大学教育を初めとした教育において、「志」を持った人間を育てていくことが必要。

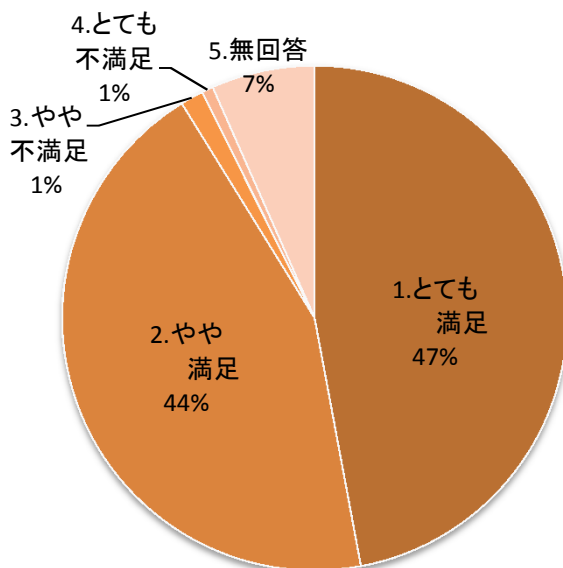
【会場参加者も含めたディスカッションにおける主な意見等（メインシンポジウム）】

- 大学での学びは個人に還元されるだけではなく社会全体にとって重要だという認識の下、社会全体がサポートしていくような仕組みを作ることが必要。
- 大学での成果・付加価値を求めるのであれば、やはりそれに見合った投資が必要。また、投資を増やすことと併せて、実技・実験等を伴った少人数教育が必要。
- バックボーン(専門分野)が違う様々な人が同じ大学にすることが重要。若い学生が経験したことのない様々な経験を持つ社会人学生が、若い学生と同じ学びの場にいることは、学生にとって有意義。
- 社会人の学び直しには企業の協力・理解がとても重要。そういう意味でも産学連携が重要。
- 学部教育では、まず特定の分野の基礎を積み、一つ目のアカデミックリテラシーを培うことが重要。その上で、PBL(課題解決型授業)を行うべきであり、PBLは動機付け、意味付けの部分を担当し、コラボレイティブの観点から用いるべき。
- 学生が主体的に学ぶためには、大学は学生のためにあるという考えを学生に伝え、また、その考えを基本・根底にして議論すべきだと思う。
- 学生の主体的な学修の時間が短いという指摘があるが、アルバイトやサークルも勉強の場である。そういった場には、自分が学んできたことを社会の場で試すポテンシャル(実技・実習等の場となり得る可能性)がある。
- 大学入学時点で「志」を持てていないから、大学の授業に意義を感じていないのではない。初中教育段階からの教育で「志」を持たせていくこと、「志」を持つ力を育てることが重要。
- 追跡調査によると、入学時にGPAが高いのは確かにセンター試験や一般入試による入学者である傾向が高い。しかし、卒業時には、AO入試や指定校推薦等で入学した学生のGPAがセンター試験等を利用した学生と同等、もしくは上回るという傾向もある。
- 世間体・偏差値等(大学の序列化)が大学での学びのモチベーションに悪影響を与えている気がする。それぞれの大学で、その大学でしか学べないことがあるはず。
- 人間の能力には数値化できない能力が多くあり、機械による入試から人が人を選ぶ(一緒に学びたい人(パートナー)を選ぶ)入試になるように、日本を変えていきたい。

【学生を含めた参加者を対象とした主なアンケート結果※】

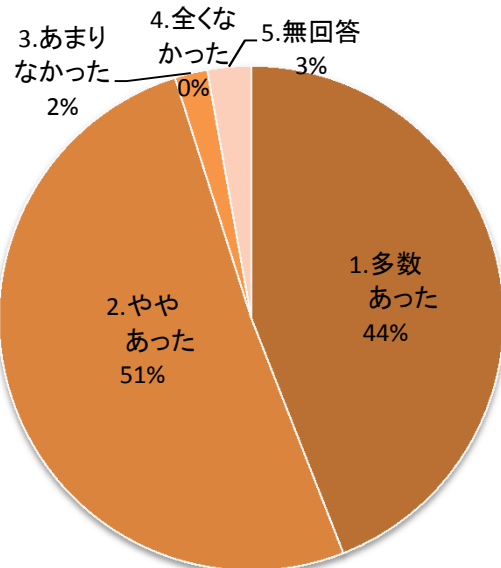
※回収率＝約51%(136人/266人)

Q.本日参加された満足度をお聞かせください。



満足度:91%

Q.フォーラム参加の発言・コメントの中に「ためになった」「参考になった」ものはありましたか？



参考になるコメントあり:95%

大学教育改革地域フォーラム2012 In ネットワーク多摩

プログラム

○日時：12月16日（日） 13:00～18:00

○会場：明星大学日野キャンパス 22 号館（大学会館）（分科会は 26 号館）

・総合司会：細野助博（学術・文化・産業ネットワーク多摩専務理事、中央大学教授）

◇13:00～13:30（A）主題講演

テーマ：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換—中教審答申を読む—」

・講師 板東久美子 氏（文部科学省高等教育局長）

＊問題提起『今、問われる「大学での学び」』上映（15 分）

◇13:35～15:55（B）メインシンポジウム

テーマ：「産官学連携を軸に、高等教育はどう変わるか？

—質重視の段階に入った高等教育をめぐる—」

・パネリスト： 鈴木 寛 氏（元文部科学副大臣）

梶谷 誠 氏（電気通信大学学長）

日比谷潤子 氏（国際基督教大学学長）

佐藤 浩二 氏（多摩信用金庫理事長）

板東久美子 氏（文部科学省高等教育局長）

・モデレーター：小川 哲生（学術・文化・産業ネットワーク多摩会長、明星大学学長）

◆13:35～14:15 各パネリストの発表（各10分×4名）

◆14:15～14:55 討 論

◆14:55～15:55 フロアとの質疑応答（学生も参加可）

◇16:10～17:30（C）分科会（サブシンポジウム）

サブテーマ：「大学の明日を作るソリューション —中教審答申を踏まえて—」

●第1セッション：学生の資質を伸ばす雇用革命

・地域の雇用促進とインターンシップ・ボランティア

・ライフプラン設計と就職活動のあり方

（担当大学）：法政大学 （コーディネーター）：宮城まり子教授

●第2セッション：ICT イノベーションと大学教育

・ICT リテラシー教育のあり方

・電子書籍とタブレット端末の教育効果

（担当大学）：大妻女子大学 （コーディネーター）：生田茂教授

●第3セッション：グローバル時代の日本の大学

・グローバル人材育成

・大学のグローバル化

（担当大学）：中央大学 （コーディネーター）：若林茂則副学長

◇17:30～18:00（C）クロージングセッション：

（コーディネーターによる各分科会の報告を中心に意見交換）

大学教育改革地域フォーラムinネットワーク多摩(12/16)の様子



会場の様子



主催者挨拶の様子



壇上の様子



パネリストの発表の様子



フロアとの質疑応答の様子